

(9)

氏名 (生年月日)	楠 元 雅 子 クス モト マサ コ
本 籍	
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲第41号
学位授与の日付	昭和43年3月30日
学位授与の要件	医学研究科外科学専攻, 博士課程修了者 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	Falot 四徴症の自然歴
論文審査委員	(主査) 教授 榊原 仟 (副査) 教授 三神 美和, 教授 小坂 樹徳

論文内容の要旨

目的: 近年, 各種心疾患に対する外科手術の進歩は著しく, また手術後のかなり長期にわたる Follow-up も明らかになつてきており, あらためて手術の適応および時期について再検討されている. そのためには各疾患の正確な自然歴を知る必要があり, その上で比較検討されるべきものと考えられる. しかし, その自然歴の明らかにされているものは少なく, 特にチアノーゼ性心疾患の大半を占める Falot 四徴症に関しては, ほとんどわかつていないのが実情である. 著者は Falot 四徴症の 1,477例について, 主にその自然歴を明らかにし, ひいては手術適応の選択, 時期の決定にも寄与せんとした.

研究資料と調査方法: 1954年5月から1966年8月までの12年間に東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所の外来を訪れた Falot 四徴症の患者 1,477例を対象とした.

Falot 四徴症 1,477例中1967年9月までに当科では手術を受けていない 592例について, アンケートを送り, 生死, 現在の状態あるいは死因, 心手術の有無などについて調査した. アンケート回収率は60%であつた.

本学病理学教室で剖検により Falot 四徴症であることが確かめられている非手術例30例について, 臨床症状および死因について検討した.

研究成績ならびに考按:

1) 初診時年齢分布をみると, 1才から5才までの年齢層が 594例 (40.2%) で最高の山を示し, 以後5年毎にほぼ半減し, 30才以上は19例 (1.3%) にすぎない.

2) 初診以後の経過では, 1967年9月の検査ですでに

956例 (64.7%) は心手術を受けており, 内 213例は死亡している. 非手術例は 269例 (18.2%) で, 内60例は死亡している. 手術の有無は不明であるが生存しているもの69例 (4.8%), 死亡しているもの60例 (3.0%), 生死不明のもの 123例 (8.4%) である. すなわち 1,477例中, 1年から12年間にわたる Follow-up で少なくともすでに 313例 (22.5%) は死亡している.

3) 非手術生存者 209例の現在の自覚症を初診時と比較したが, 平均3年2カ月の Follow-up 期間では, 127例 (60%) は変わらないが, 53例 (25.4%) はよくなつており, 22例 (10.5%) は悪化している. 30才以上のものでもよくなつたと解答しているものもある.

4) アンケート解答者のみについて, 非手術例の累積死亡率は, 1才以下は 6.1%, 5才以下は22.4%, 10才以下は41.2%となり, 15才までではほぼ半数が死亡している.

5) 非手術例の死亡年齢および死因: 本院では69例の非手術死亡例があり, 内30例は剖検で確かめられている. 平均死亡年齢は7才5カ月である. 死因は5才以下のものでは, 肺炎, 無酸素発作が多く, 6才以上のものでは, うつ血性心不全, 心内膜炎, 脳膿瘍によるものが多くなつている. 全国の剖検例を日本病理輯報によりみると, 最近8年間で非手術例は 174例あり, 1才以下が88例と半数を占め, その平均死亡年齢は 5.6才となつている. 死因は同じく5才以下では肺炎や感染症が, 6才以上では脳膿瘍が多くなつている.

以上より, 平均死亡年齢は従来の報告より若く, 本疾

患の予後の悪いことをさらに強調された結果を得た。い
ずれの年代でも細菌感染が死因に大きな役割を演じ、幼
年者では、無酸素発作による死亡が多い。

本研究により、Fallot 四徴症の自然歴が明らかとな
り、ひいてはこれに対する外科的手術の適応ならびにそ
の時期の選定に資し得たと考える。

論 文 審 査 の 要 旨

本論文はフェロー四徴症の自然歴を 1,477例という多数の症例を中心に研究したものである。その結果、
本症の平均死亡年令が従来報告より若く予後の悪いことなど、種々の点について新所見を見出した。こ
れは手術の適応決定の基準としても意義あり、医学の発達に資するところ多く、価値ある研究と認めた。

主論文公表誌

Fallot 四徴症の自然歴

東京女子医科大学雑誌 第38巻 第5号 337
～ 344 (昭和43年5月25日発行)

副論文公表誌

1. 結節性動脈炎の1例

東女医大誌 37 (12) 834～ 843 (昭42)

2. 心臓手術の適応とその予後

内科 19 (2) 267～ 286 (昭42)

3. 多数副脾の心奇形児が脳炎様症状を呈した血清肝
炎の剖検例

東女医大誌 36 (12) 769～ 773 (昭41)

4. 糖尿病性 Neuropathy に関する研究

—その成因と最近の興味ある症例についての考察—

東女医大誌 35 (11) 649～ 655 (昭40)